

飛鳥の風土がもたらしたもの

—飛鳥と呪術と幻覚性植物—

飛鳥の風土がもたらしたもの

—飛鳥と呪術と幻覚性植物—

内容

1. はじめに
2. 背景・動機・目的
3. 皇極・斉明天皇のマツリゴト(祭事、政事)に内包する道教と呪術性
4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為
5. 薬猟(くすりがり)と本草
6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」
7. 飛鳥という都市空間が持つ特別な意味
8. 飛鳥の風土がもたらしたもの

「風土」:その土地の気候・地味・地勢など自然環境だけでなく、地形・水系・植生・交通網・集落などの要素によって構成される、また、洪水、地震、津波などの災害の歴史などのありさまや、人間の文化の形成などに影響を及ぼす精神的な環境をいう。(飛鳥の場合では、湿地、水銀や本草の生まれる土壌、神仙思想による精神的環境、祭祀やマツリゴトの歴史的・文化的背景)

「呪術」:神や精霊などの超自然的な力や神秘的な力に働きかけ、種々の願望をかなえようとする行為、および信念。まじない・魔法・魔術など。 ともに—Wikipedia— および発表者一部加筆

1. はじめに

飛鳥は三方を山々に囲まれた細長い小盆地である。中央を流れる飛鳥川の変化に富んだ淵瀬や水辺の湿地は、山から吹き下ろす爽やかな風や谷間から湧き上がる霧とともに豊かな自然を育んでいる。「飛ぶ鳥の」アスカ、と万葉集に歌われたように、古代と変わらぬ情景が今も自然や歴史と共に飛鳥の風土の中に息づいている。

飛鳥は、大和川の水利で難波津(大阪湾)に地理的に近く、仏教伝来以前から渡来人の往来など倭国発展の地政学的条件が備わっていた。7世紀、相次いで起きた権力闘争や、逼迫する大陸・朝鮮半島情勢は、倭国が律令体制の構築を目指し、後の中央集権国家成立へと躍進していく過程の序幕であり、この舞台こそ飛鳥であった。飛鳥は日本という国家の礎となった地である。

飛鳥という地には、吉野を仙人の住む神仙境¹⁾に見立てた地勢と、神仙思想²⁾を理想とする異教の宗教と呪術を内包する風土とがあり、マツリゴト(政事と祭事)と不可分の関係にあった仙薬³⁾が近傍一帯に存在していた。為政者は、道教呪術的色彩を持つ「採薬師」⁴⁾ら、薬に精通した者を迎え、薬草や呪術によって病気や邪気を祓う治療などを行った。

かつて湖であり湿地であった大和近隣の小盆地が、ヤマト王権から続く飛鳥京としてどのようにして生まれ、どのような経緯で飛鳥の地が都になったのか。飛鳥には他とは違う隠された何か、特別なポテンシャルがあったのだろうか。1)不老不死の仙人の住む山。2)神仙を信仰し、不老不死などを願う思想。

3)不老不死の仙人になるための薬。水銀や本草。4)薬を取り扱い、病気の治療をする人。

飛鳥の風土がもたらしたもの

—飛鳥と呪術と幻覚性植物—

内容

1. はじめに
2. 背景・動機・目的
3. 皇極・斉明天皇のマツリゴト(祭事、政事)に内包する道教と呪術性
4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為
5. 薬獵(くすりがり)と本草
6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」
7. 飛鳥という都市空間が持つ特別な意味
8. 飛鳥の風土がもたらしたもの

2. 背景・動機・目的

✓ 奈良の都にペルシャ人役人がいた !! 木簡に名前。

表側の上部に「大学寮解○申宿直官人事」、下部に、定員外の特別枠で任じられた役人「員外大属(いんがいたいさかん)」(役職名)、中国語でペルシャを表す「波斯(はし)」と同じ読み・意味の「破斯」という名字を持つ「破斯清通」という人名と、「天平神護元年(765年)」という年号が書かれていた。(抜粋)

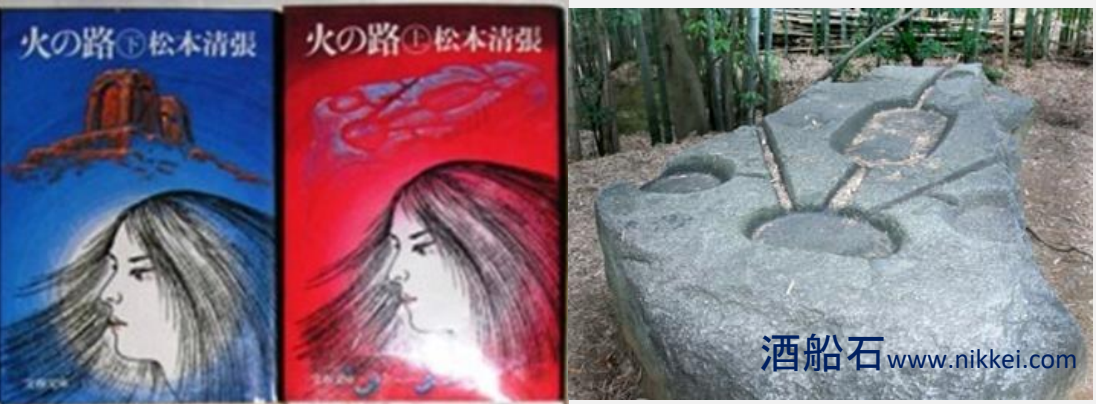
✓ 松本清張著 『火の路』:(文芸春秋1975):ペルシア人・ゾロアスター教徒の飛鳥時代伝来説を描いた古代史ミステリー。

著者は、斉明天皇が異境の宗教「ゾロアスター教(拝火教)*」の影響を受け、その宗教の祭祀で使われる幻覚性神酒「ハオマ」を使ってシャーマンとして祭祀を行っていたかの如く読者を印象付けた。なぜ、女帝は祭祀に幻覚剤ハオマを使ったのか?それは大麻(マリファナ:THC)ではないかと推論した¹⁾。そして飛鳥の石造物、酒船石(後述)はハオマの製造装置ではないかと?著者は、「飛鳥とペルシャは「シルクロード」で繋がった文物の交流ではなく、時空を超え、火を導いた「火の祭祀」で繋がるゾロアスター教の「火の路」ではないか」と。

1)大麻説:松本清張、麻黄説(エフェドリン):伊藤義教、「ゾロアスター教論集」、p. 473、平河出版社(2001)。山崎幹夫『毒の話』p.80-90中央新書(1985)。



765年 木簡に名前
国際性示す史料に
(読売新聞2016/6/5)



*ゾロアスター教 (拝火教、祜教)

イラン高原に住んでいた古代アリア人はミスラやヴァーユなど様々な神を信仰する多神教を基に、ザラスシュトラ(ゾロアスター、ツアラトウストラ)がアフラ・マズダーを信仰対象として創設したのがゾロアスター教のルーツである。(Wikipedia)

写真はペルシャ人の役人とみられる「破斯清通」という名前(右側)が確認された木簡の一部(赤外線写真)で、右側は木簡に記されていた文字。

(奈良文化財研究所)

1975年、本書で松本清張氏の提示した考古学や歴史学の多数の仮説は、読者や学会に刺激を与え、高く評価された。しかし……

2. 背景と動機・目的

・・・その後2000年に酒船石遺跡から齊明天皇の祭祀の場と推測される亀形石造物が発掘された²⁾。亀形石造物は齊明天皇の信仰が道教²⁾であり、松本清張の推論した宗教がゾロアスター教ではないことがわかった。しかし飛鳥の地に残こされた文物や人名³⁾が、遙かペルシャから壮大なロマンを秘めて伝わっていることを読者ばかりでなく、学会にも知らしめた。

2a) 相原嘉之「酒船石遺跡発掘調査成果とその意義」『日本古考学』11,171-180(2004)。

2b) 上田正明監修、千田稔、『飛鳥の覇者』p.164 文英堂(2011)。

亀形石造物の亀は道教でいう蓬萊山を背負うという意味において、天宮が置かれた多武峰を背負っているという構図を齊明女帝が具体的に表現したと思われる。

3) 伊藤義教『ペルシャ文化渡来考』—シルクロードから飛鳥へ—, p. 48、岩波書房(1980)。

背景・動機

◆ 大和一帯には仙薬*があり、齊明天皇を取り巻く環境には道教(後述)と呪術があった。

* 不老不死の仙人になるための薬で水銀や本草(薬草また、薬用となる動植鉱物の総称)

◆ 齊明天皇は祭祀にどのような幻覚性物質を使ったのか。

◆ 飛鳥から望む吉野山を神仙思想の理想境とした地勢的な条件と風土。これらが備わった地、飛鳥とはどんな都市なのか。

齊明天皇の祭祀の場



「大亀が背に蓬萊山を背負い・・・」 王逸『列仙伝』
蓬萊山は道教の神仙思想の仙人の住む山

希齋筆「蓬萊図」部分

2. 背景と動機・目的

飛鳥という都市が生まれた理由の一つは大和川の存在である。大和川を経て学問・芸術・宗教・法律・制度などの文化産物に関する人物や文物の渡来の多くが伝えられた。特に道教思想は飛鳥の地勢と調和し、地政学的発展をした都市が生まれた。

目的

- 幻覚性植物とは。
- 飛鳥という都市空間がもつ風土とはなにか。

「風土」:その土地の気候・地味・地勢など自然環境だけでなく、地形・水系・植生・交通網・集落などの要素によって構成される、また、洪水、地震、津波などの災害の歴史、などのありさまや、人間の文化の形成などに影響を及ぼす精神的な環境。(飛鳥の場合では、湿地、水銀や本草の生まれる土壌、神仙思想による精神的環境、祭祀やマツリゴトの歴史的・文化的背景) —Wikipedia— および発表者一部加筆

飛鳥の風土がもたらしたもの

—飛鳥と呪術と幻覚性植物—

内容

1. はじめに
2. 背景・動機・目的
3. 皇極・斉明天皇のマツリゴト(祭事、政事)に内包する道教と呪術性
4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為
5. 薬獵(くすりがり)と本草
6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」
7. 飛鳥という都市空間が持つ特別な意味
8. 飛鳥の風土がもたらしたもの

3. 皇極・斉明天皇のマツリゴト(祭事、政事)に内包する道教と呪術性—1

『日本書紀』、皇極・斉明天皇の条には、シャーマンとしての祭祀の形態は勿論、その政治内容にも多くの道教やゾロアスター教と考えられる宗教の影響が窺える。**なぜ皇極天皇・斉明天皇の条には不可解な記述が多いのか。**

642年 皇極天皇元年 七月条

「日照りが続いたので**雨乞い¹⁾**のため、**牛馬を殺して²⁾**諸社の神を祀り祈ったりしたがまったく効果がなかった。蘇我大臣 蝦夷は、諸寺で**大乘經典**を転読悔過し、雨を祈ろうとしたがほとんど効果はなかった」……**道教*、ゾロアスター教、ミトラ教、密教**

- 1) 福永光司、千田稔、高橋徹『日本の道教遺跡』 p. 24、朝日新聞社(1987)。古代、雨乞い儀礼の一環として、牛馬を殺して、神に捧げることなど道教呪術儀礼が大和朝廷に伝来し、在地の川神信仰と習合したものと考えられ、古代中国に起源を持つ。
- 2a) 栗原朋信「犠牲礼についての一考察」『上代日本対外関係の研究』吉川弘文館、(1978)。日本古代の殺牛祭神はあくまでも渡来人の祭祀であり、日本の農耕儀礼の一般的な祭祀ではない。
- 2b) 金子裕之『AERA Mook 考古学がわかる。』 p.50、朝日新聞社(1997)。これらは道教呪術儀礼の影響による。牛馬の渡来自体が古墳期からであり、殺牛馬のまじない文化は渡来系の信仰とされる。

- ✓ 雨乞いには、大孔雀明王呪経³⁾などの初期密教(雑蜜:真言・天台密教以前の呪術等を中心とした密教)や道教信仰が浸透していた。また、牛馬の供犠にはミトラ教、ゾロアスター教、道教の影響が窺える。3)孔雀明王の呪法:大孔雀経呪法(雑蜜である)
(大山仁快「雑部密教事相の一考察—事物的な呪法を中心として—」『密教文化』52, 28-38(1961))。孔雀明王を本尊とした密教呪法。真言密教において孔雀経法による祈願は鎮護国家の大法とされ最も重要視された。



牛を屠る太陽神ミトラス
(大英博物館蔵)

* **道教** 中心概念は「道」(タオ)であり、「道」とは宇宙と人生の根源的な不滅の真理を指す。この道と一体となる修行のために不老不死の靈薬(仙丹)を練り(練丹術)、仙人となること(神仙思想)を究極の理想とする(仙道呪術)。丹とは水銀。仙丹(仙薬)とは靈力のある薬^{4, 5, 6)}。

4)『道教の本』、学研(1993)。 5)福永光司『道教と日本思想』、徳間書店(1985)。

6)和田萃『日本古代の儀礼と祭祀・信仰 中』25頁 塙書房(1995)。

3. 皇極・斉明天皇のマツリゴト(祭事、政事)に内包する道教と呪術性一2

642年 皇極天皇元年 八月条

天皇は南淵の河上に行って、跪いて**四方を拝んだ⁴⁾**。天を仰いで祈り請い願った。
**すぐに雷が鳴って、大雨(ヒサメ)が降った。ついに雨が降ること5日。あまねく
天下を潤した⁵⁾**。ここに天下の百姓たちはともに喜び言った。
「徳のある天皇だ！」と。……**道教(四方拝、祈雨)、密教(雑蜜)(祈雨)**

4) 前頁1)参照

四方拝は道教の様々な道術を行うときの宗教的儀礼
であって、道教の教理書には、「四方を拝して気を服す」
とか「四方を拝して以って神明を感じしむ」とある。
「**四方拝は今なお皇室に引き継がれている道教の宗教
的儀礼である**」

5a) 福永光司『道教と日本思想』p.78、徳間書店(195).
ここには皇極天皇のシャーマンとしての要素が窺え、
それは鬼道に通じ、魏志倭人伝にある鬼道とは神道、
ひいては道教に通じるものであるとしている。

5b) 藺田稔、橋本政宣 編 『神道史大辞典』 p.543,
吉川弘文館(2004)。中国の民間信仰である道教の思
想や祭儀形態を、自然崇拜・精霊崇拜(アニミズム)を
拝する日本人の風習とし『記紀』などに取り入れていった。



四方拝

<https://nezu3344.com/>



<http://tono202.livedoor.blog/archives/6292240.html>

✓ 人々の祈願や信仰が現世利益的な
靈験を求める道教の呪術として、**シャーマ
ンの能力が皇極女帝の祭祀に受け継**

がれていることが想像される。「巫女王というのは卑弥呼の様にシャーマンの要素が濃厚で、女王として君臨する二つの顔を保有する王者である。マツリゴト(祭事)とマツリゴト(政事)は未分化であって神祭りの機能を濃厚に保持しながら政治をした女王を指す」という⁶⁾。

6) 上田正昭『古代日本のこころとたち』p.140,角川書店(2006)。

■ 皇極・斉明天皇の条には鬼の出現をはじめ数々の怪奇の現象が多く、道教思想やシャーマンとしての資質や神秘性が祈祷、秘儀、呪術などに強く顕れている。

飛鳥の風土がもたらしたもの

—飛鳥と呪術と幻覚性植物—

内容

1. はじめに
2. 背景・動機・目的
3. 皇極・斉明天皇のマツリゴト(祭事、政事)に内包する道教と呪術性
4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為
5. 薬獵(くすりがり)と本草
6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」
7. 飛鳥という都市空間が持つ特別な意味
8. 飛鳥の風土がもたらしたもの

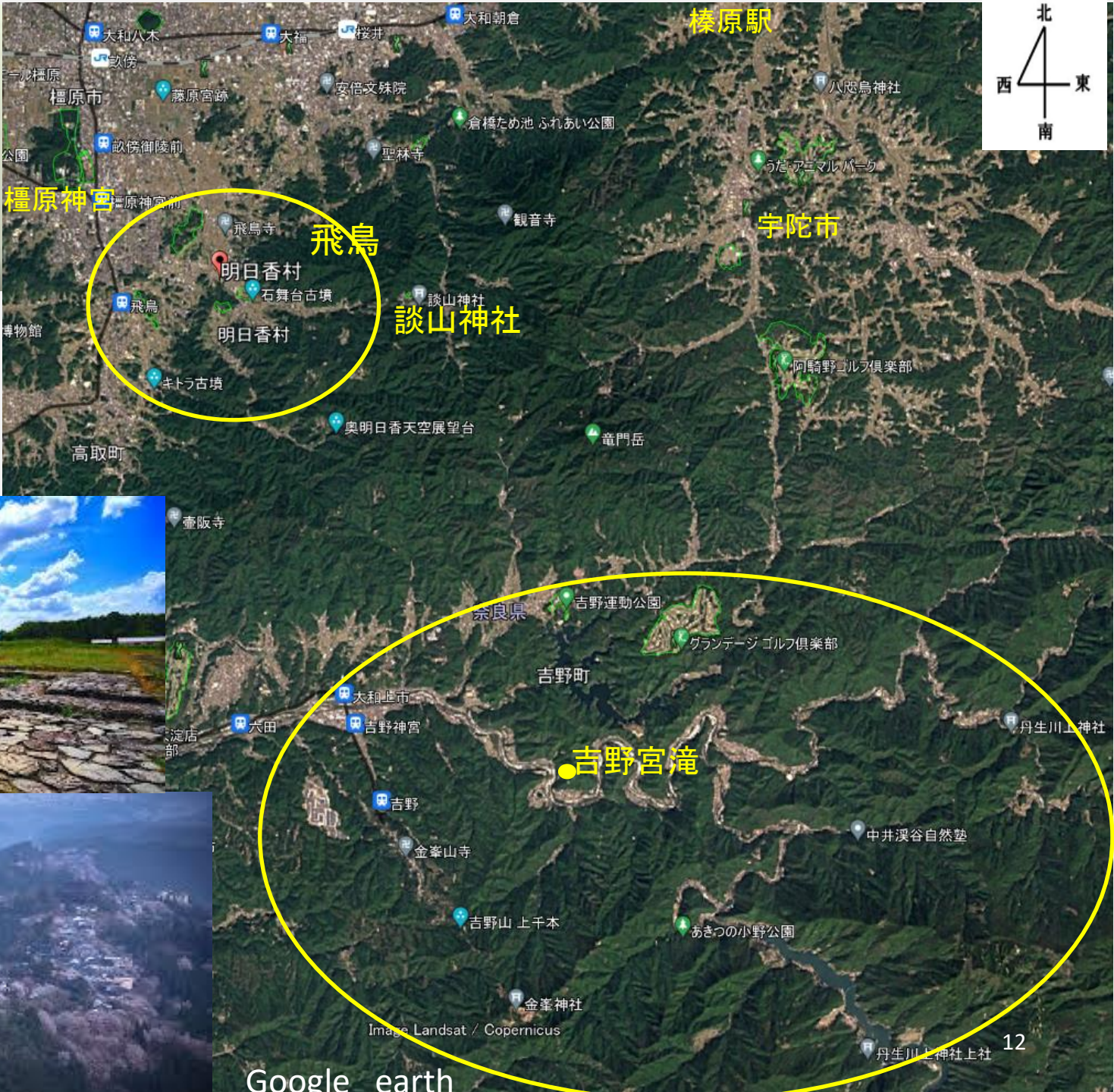
シャーマニズム: 呪術を用いる宗教的職能者であるシャーマンに依拠する信仰のことである。つまり、シャーマニズムは、呪術を行使するばかりか、私たちにとって知覚できない「霊的な存在」と交流・対話したり、「霊的な世界」に旅することができるシャーマンの存在を前提とする宗教形態である。

<https://navymule9.sakura.ne.jp/080207MA05.html>

4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為

4-1. 飛鳥から見た神仙境・吉野の位置関係

神仙思想は、飛鳥から見た吉野を道教の神仙境・蓬萊山に見立てた。



飛鳥宮



吉野山一帯

4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為

4-2. 齊明天皇の祭祀場



飛鳥京中心地の再現模型

齊明天皇の祭祀場跡 (酒船石遺跡) 位置関係

(飛鳥資料館ジオラマ)



小墾田宮跡

石神遺跡 (迎賓館)

水落

狂心の渠(水銀を運ぶ渠:私見)

飛鳥坐神社

甘樫丘

飛鳥寺

飛鳥池工房

蘇我邸跡

榎木の広場

酒船石遺跡

シャーマンとして呪術を行った場所

飛鳥京苑池

齊明天皇の道教の祭祀場 (酒船石遺跡)

亀形石造物

川原寺

飛鳥宮

酒船石

相原嘉之「酒船石遺跡発掘調査成果とその意義」『日本古考学』11, 171-180(2004).

エビノコ郭

<https://isle-bd.com/asuka-kyuseki/>

CATHARSIS

橘寺

4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為

4-3. 皇極・齊明天皇は本当にシャーマン*か？

- ✓ 「雨乞い」の術は祭祀呪術そのものであるが、「降雨」という現実的な願望は自然現象に期待しており、皇極紀にある「ついに雨が降ること5日」(前述)は偶然である。祈禱や念力により雨は降らない。雨が降るのはこのような奇蹟でなく科学的現象である。
- ✓ 科学的な客観性を有している通常社会において喚起される覚醒的な意識状態は、合理的・論理的・理性的状態、いわゆる「**日常の意識状態**」である。対し、瞑想状態、催眠状態、宗教儀式などのトランス(入神)状態、夢、向精神性薬物(ドラッグ)によるサイケデリック(意識拡張)状態などの神秘体験を「**変性意識状態**」**¹⁻³⁾という。
シャーマンの**呪術によって起こる意識状態も「変性意識状態」である。(後述)**

* シャーマン:神や精霊との直接接触からその力能を得、神や精霊との直接交流によって託宣、予言、治病、祭儀などを行う呪術・宗教的職能者。役割を果たす際に、トランス(trance(変性意識状態))のような異常心理状態になることが多い。(日本大百科全書)

1) Charles T. Tart (ed.) ; Altered states of consciousness . John Wiley & Sons Inc.,(1969).

2) <https://freegestalt.net/asc/basic/asc/>

3) 蛭川 立 Tatsu HIRUKAWA 明治大学情報学 (<http://www.isc.meiji.ac.jp/~hirukawa/text/asc.htm>)

4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為

4-4. 幻覚剤(植物)の使用で「変性意識状態」伴う化学的な誘導操作

- ✓ 呪術は、近代科学を通して見れば、すべて非合理的なものである。しかし、植物(薬)を使った呪術では、自らの意思とは無関係に「変性意識状態」となる。皇極・斉明紀にある不思議な出来事が、マインドコントロール*のような心理的な誘導、または洗脳**、などの化学的(幻覚性植物などを使用した)誘導などであっても、呪術に依拠する者は意志とは無関係に、顕現する現象だけを信じてしまう。

* マインドコントロール: 自分以外の人から(操作者)強い影響や強制を受けることで、意思・行動・信念などが強く形成され、操作者の意のままに行動してしまう。

** 洗脳: 薬物の使用や拷問・監禁によって強制的に精神構造を変化させる。操作者を呪術者と考えると、これらの意識はマインドコントロールと同様、変性意識状であると捉えてよい。ともにWikipedia、一部発表者加筆

化学的な誘導操作(薬、植物など使用)

中国では仙薬として水銀*が用いられていたが、日本では仙薬が水銀から本草**へ移行した(後述)。* 水銀: 不老不死の薬、神仙思想の「仙丹」(仙人になる薬)の原料と信じられていた。(練丹術)

(後述) **本草: 薬草また、薬用となる動植物の総称

現在も世界で使われている植物を使った化学的誘導例を示す。

- ✓ ハオマ(ゾロアスター教(聖典アベスター): 幻覚性神酒 植物: 石榴、葡萄、大麻、麻黄などと推定
- ✓ アヤワスカ(アマゾン北西部で呪術などに伝統的に用いられている植物カーピ、成分: 幻覚剤DMT
- ✓ ネイティブ・アメリカン・チャーチの儀式でのペヨーテ(サボテンの一種)、成分: 幻覚性アルカロイド
...他多数

4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為

4-5. 化学的誘導操作: 幻覚性植物を使う呪術

✓ シャーマンの仕事は、気候・食糧生産、戦い、病気(医療)・死、願望などの未来予測であって、そこに向精神作用を持つ薬草などが使われた。

具体的に呪術を成り立たせているものは呪的行為と呪物(呪具)である。

✓ 呪的行為

心理的に影響を与える場合・・・五感(音、嗅覚、視覚、触覚、味覚)に対して行う。催眠術、暗示、まじない、のろい、厄除け、加持、加持祈祷、魔法、除霊、悪魔払い(悪魔祓い)、呪文、呪物崇拝、フェティシズムなどがある。

✓ 呪物(呪具)

化学的に身体に直接影響を与える場合(化学的な誘導操作)
・・・薬(薬草、酒、睡眠薬、幻覚剤)、他。

✓ 日本では典薬寮* の呪禁師* *は本草を使って治療を行っていた。斉明女帝も幻覚性や覚醒性植物を使い、祭祀を行ったと考え、奇跡(呪術)を受け入れる信仰には、宗教と呪術が一体化している(後述)。

* 典薬寮は律令制の中の医疾令により制定された機関で、宮内省に属する医療・調薬を担当する部署。(Wikipedia)

** 呪禁師は道教の影響を受けて成立し、呪術によって病気の原因となる邪気を祓う治療などを行った。古くは仏教の祈祷と混同されて用いられた例もある(Wikipedia)。

4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為

4-6. 信仰のありよう(抜粋)

信仰とは靈的なもの・神的なものに対する、安心あるいは信頼の心情を意味する言葉として使われる場合が多いが、**人間的な知識ではなく知識を超えた不合理な要素を含む場合が少なくない。**一略一 従って、**非科学的な信仰は迷信として排除されるケースもあるが、呪術的であり不合理であるからといって、そのすべてを捨て去るわけにはいかない。**なぜなら、**本来の信仰とは時間・空間を超えた永遠なるもの・無限なるものにかかわる心情であるからだ。**科学もまた、もともとは**永遠なるもの・無限なるものへのあこがれを内包し、永遠と無限への憧憬なくして発達しなかったといえるのではないか***。

上田正昭、一信仰のありよう(抜粋)一 『私の日本史(上)』、51頁、新潮社、2012。

* 英国の人類学者・古典学者である J. フレーザー(1854-1941)は、人類の知的発展は呪術から宗教へ、宗教から科学へという進化的過程を経ることを主張したが(『金枝篇』より)、この**呪術と宗教という二分法は、現在ではその両者は分かつことのできない複合体である**と考えられている。日本大百科全書(ニッポニカ)。

- 信仰は不合理な呪術や非科学的な宗教であっても、分割することが出来ない複合体であり、**時空を超えた心情である。呪術の理解なくして宗教は理解できないことを示している。**

飛鳥の風土がもたらしたもの

—飛鳥と呪術と幻覚性植物—

内容

1. はじめに
2. 背景・動機・目的
3. 皇極・斉明天皇のマツリゴト(祭事、政事)に内包する道教と呪術性
4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為
5. 薬猟(くすりがり)と本草
6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」
7. 飛鳥という都市空間が持つ特別な意味
8. 飛鳥の風土がもたらしたもの

5. 薬猟(薬狩り)と本草

水銀の枯渴

- ✓ 談山神社(祭神:藤原鎌足)境内の摩尼法井(戸)で定慧和尚が法華経を講じたとき、龍神の出現があったと伝えられている。これは祭神ニウズヒメ(水銀の女神)からミズハノメ(水の女神)への、すなわち水銀の枯渴によって稲作への転換が起きたことを意味している。やがて多武峰水銀鉱山(針道)は廃坑となった¹⁾。

水銀に代わる本草は何か。

- ✓ 水銀の枯渴や、また毒性も明らかになるとともに、日本では民間道教の神仙思想は、「四民並びて百草を踏む。……雑草を採る」(後述)とあるように宗教思想の対象というより幸福の象徴としての憧憬の対象となっていく²⁾。推古天皇、皇極・斉明天皇、持統天皇は、薬狩りにおいて、水銀より薬草にその重要性を求めていった。

1)「水銀の道、飛鳥池工房遺跡の出土品」2021、10月当会発表

2)和田萃『日本古代の儀礼と祭祀・信仰 中』p.35、塙書房(1995)
、idem,ibid,99-149.

薬狩りでは『神農本草経』(上薬、中薬、下薬)や『本草集注』などに記載されている本草*を採取した(後述)。ここには錬丹術の材料や薬草の他に数十種の鉱物もあるが、呪術に関する種々の本草が記載されている。

*薬草 また、薬用となる動植物の総称



摩尼法井
(談山神社)

龍神出現の井戸

推古天皇の薬猟は
小墾田—宇太水分神社—菟田野へ

5. 薬猟(薬狩り)と本草

至京都
推古天皇6年(597年)に、「薬草は民を養う要物なり。厚くこれを蓄ふべし」との詔勅があり、これ以後、薬猟りが行われるようになった。

大和八木
桜井市
近鉄大阪線
宇陀市
菟田野(阿騎野)
阿騎野人麻呂公園

飛鳥寺
飛鳥池工房遺跡
石舞台古墳
談山神社
明日香村
奥明日香天空展望台
竜門岳

橿原神宮
推古天皇小墾田宮(雷丘東方遺跡)

薬猟『日本書紀』
611年(推古19年) 菟田野
612年(推古20年) 羽田
614年(推古22年) 蒲生野
668年(天智7年) 蒲生野

この地が大和朝廷の猟場とされた理由は、ここから産出する水銀が仙人を目指す不老長生の「神仙思想」と深く結びついており、この地(中央構造線上にある)が「聖なる地」と考えられていたからである。

宇太水分神社

大和水銀鉱山
宇太水分神社

推古天皇が薬狩りの時に身を清めた井戸(宇太水分神社)

5. 薬獵(薬狩り)と本草

- ✓ 薬獵の目的は薬草採取および薬用にする鹿の袋角「鹿茸(ろくじょう)」(増血、強壯剤)を採取することであった。薬獵は5月5日に毎年行われたようであった。この日を薬日とされ、日本でもこの日を端午の節句とし、菖蒲湯に入り邪気を払い健康を祈った。菖蒲は尚武に通ずる事からこの日を男子の日とするようになった¹⁾。

薬草は病の治療ばかりでなく、薬草を染めた裂をまとうことで、病や神の怒り、穢れを祓い浄め、身を守るものであったと思われる²⁾(私見)。

1) 伊田喜光、根本幸夫 監修「古代出雲の薬草文化」38-39、出帆新社(2013)。

2) 拙稿「薬草と古代の色と匂い」『歴研よこはま』79, 53-56、横浜歴史研究会(令和元年11月)



<https://yamatotk.web.fc2.com/kose/hatamikajinija.html>

薬獵612年5月5日
(推古20年) 羽田

推古天皇19年(611年)5月5日《菟田野(阿騎野)の薬獵》(部分)(星薬科大学歴史資料館蔵)



- ✓ 水銀は枯渴や、また水銀の持つ毒性が知られ、直接摂取することはなくなった。『本草集注』³⁾(後述)などに記された水銀の産生する池や川の水、山菜、鳥獣の肉など、また薬草などの植物を摂取することで、間接的に水銀を摂取できると考えるようになった。徐々に仙薬は水銀から植物に移っていった。

3) 和田萃『日本古代の儀礼と祭祀・信仰 下』468頁 塙書房(1995)。

5. 薬獵(薬狩り)と本草

- ✓ 『神農本草経』(1~2世紀)「本草」とは生薬として用いられる植物・動物・鉱物の総称であり、薬草の他に数十種の鉱物がある。軽身、飢えない、不老・延年、飛仙に換える、また水銀は「不死」をもたらすとある。

不老不死の霊薬から特効のある仙薬まで薬方に名をとどめた。中国最古の薬学(本草学)書であり、個々の生薬の薬効について述べている。365種の薬物を上薬・中薬・下薬に分類。**上薬は無毒で長期服用が可能な養命薬(保健薬)、中薬は毒にもなり得る養性薬(強壮・予防薬)、下薬は毒が強く長期服用が不可能な治病薬。**陶弘景(452-536)が500年頃に著した書物に引用した内容もとに近世に復元本や注釈書がまとめられた¹⁾。

1) 野口衛『薬学図書館』33(2), 91-95, (1988)。

- ✓ 『本草集注』(陶弘景(456-536))

陶弘景がこれまでの『神農本草』や『名医別録』などを参照して校定したもので、『集注本草』などと呼ばれる。

薬学の祖「神農本草経」が成立したのは、秦・漢のころであるが、長い年月を経るうちに混乱や転写の誤りなどが生じていた。そこで陶弘景が「本草経集注」を著し、全面的な整理を行なった。その業績はたとえば、

- (1)「名医別録」(编者不詳)の中から新たに選んだ365種の薬物を「神農本草経」に加え、全部で730種と2倍に増やした。
 - (2)「神農本草経」では、上・中・下の三品に薬物が分類されているが、これを玉石、虫獸、果、菜、米食、有名未用と分類しなおした。
 - (3)臨床の場で実用的に使えるよう、薬物を80種の性質に分類しなおした。
 - (4)薬物の寒熱の性質(熱の病気には寒剤を、寒の病気には熱剤を投与するのが漢方医学の原則)を詳しく分類した。
- これらの業績は、次の唐代の「新修本草」へ受け継がれ、以下歴代王朝の勅選がくりかえされ、現代の新中国の「中薬大辞典」に結晶している。<https://www.wellba.com/wellness/doctor/contents/99201/doc4.html>

- ✓ 『抱朴子』内篇卷4(道教の神仙思想と錬丹術の理論書)(317年)によれば不老不死の仙人になるための錬丹術として丹砂(硫化水銀)を原料に金丹を得(錬金術)、その服用によってのみ永遠の命を得、仙人になれるとした中国歴代の皇帝はこれを信じた。

『抱朴子』内篇卷4「金丹」不老不死の薬(本田濟訳注、p.64-99 平凡社)
(『抱朴子』は、晋の葛洪の著書。内篇20篇、外篇50篇が伝わる。内篇は神仙術に関する諸説を集大成したもので、後世の道教に強い影響を及ぼした。(本田濟訳注、平凡社)「仙薬」の上は「丹砂」次は「黄金」、次に「白金」とあるように丹を製造する上で丹砂(硫化水銀)は欠くことのできない材料である)。しかし水銀は、強い毒性により、とりわけ深く**道教に帰依した唐王朝の歴代22人の皇帝のうち則天武后を含む7人が水銀中毒で死亡した**といわれている。



<https://www.nichiyaku.ac.jp/kampomuseum/31-1.html>



神農:
4000~5000年前の古代中国の神。身近な草木の薬効を調べた。草根木皮を嘗め、毒にあたっては薬草の力で甦った。



陶弘景
(456-536)



葛洪(かっこう 283~343)



<https://plaza.rakuten.co.jp/poetarin/diary/> 22

5. 薬獵(薬狩り)と本草

呪術と本草: 例

- ✓ 道教の呪術には、本草を用いて姿を消す、姿を変える(変身)、空を飛び、不老不死になり「天下のことを見通す」という入神の術がある。三国時代の医師・華佗が使った麻酔薬は「麻沸散」と言い、麻蕒(まふん: 大麻草の花穂、: マリファナ、『神農本草経』上薬)で、幻覚作用があり、仙人の境地ともいえる神明に通じ、身の動きが軽くなる¹⁾とある。ある種の薬草は幻覚(変性意識状態)が起きる。『本草集注』にある芝草(靈芝)(マンネンタケ)などの薬草もまた軽身、不老、延年、神仙、飛行などの効能を期待するとともに呪術と結びついていた²⁾。大麻(マリファナ)は成分テトラヒドロカンナビノール(THC)を含む。(マリファナの成分を濃縮したものをハッシシという)。

1) <https://kyushukampo.info/2020/05/27/art19/> (九州漢方研究会) 適切な量を長く服用すると、仙人の境地とも言える神明に通じ、だんだん身の動きが軽くなる。以下参照『抱朴子』内篇卷15「雑応」様々な術の効能(本田濟訳注、p.300-324 平凡社) 山本郁男、大麻文化科学考1-3(その4)北陸大学紀要第17号1~12(1993)。

2) 和田萃『日本古代の儀礼と祭祀・信仰 中』「薬獵と本草集注」第三章-第三論文、115-129、1995。(塙書房)。



華佗(? - 208年)



「華佗膏」水虫薬

- 水銀の枯渴や毒性から、薬草に移行していった仙薬には幻覚性を示すものもあった。

5. 薬獵(くすりがり)と本草

『古事記』に見られる神道と道教思想と大麻

- ✓ 『古事記』にある天岩屋戸の神話では、天岩屋戸の周りで神を招くという神聖な庭燎(にわび)が焚かれ、祝詞が唱えられ、神々はアメノウズメの狂喜乱舞したその姿に興奮していた。天岩屋戸の前には天照大神を岩屋から導く神聖な道具としての鏡や、大幣(青和幣:あおにぎて、大麻(たいま、おおぬさとも言う)と白和幣(穀や楮など:しろにぎて、木綿(ゆう))などが阿波忌部氏の祖神、布刀玉命によって禊に飾られていた。この時から幣(ぬさ)はただの麻布ではなく、現在に至るまで神性視され、神道と深い関わりができた。神々は明かりを絶やさぬように庭燎に大幣(大麻)を投げ込む。大麻の煙によって神々の興奮や陶醉は、まさに幻覚状態に達していっただろう。そしてこのとき以来、神々は大麻に自らを酔わす不思議な力があることを知った。それは大麻の神秘性と神性と魔力が一体化した瞬間であった。

拙稿、「麻と古代日本の祭祀」『歴研よこはま』78, 36-39、横浜歴史研究会(令和元年5月)
(阿波忌部氏は皇位継承の大嘗祭でお供えする麻織物「麩服(あらたえ)」を調進する役割を担っている)。

- ✓ 紀元前3200年千歳キウス4号遺跡の盛土の焦土から麻の種子麻の種子が発見されており、種子を燻らして吸煙していたことが推察されている。
山口博 『大麻と古代日本の神々』190頁、宝島社新書2014。
- ✓ 紀元前4世紀、スキタイのバジリク古墳から炭化した麻の種子と喫煙用具が発見された。
山口博 『大麻と古代日本の神々』174頁、宝島社新書2014。
- ✓ 纏向遺跡群から大量の桃の種と麻の花粉と種子が発見された。
(金原正明「纏向遺跡の植物遺体群集の産状と植生、環境、生業の変遷と画期」
『纏向学研究』纏向研究センター研究紀要第1号、40-62, 2013。
- ✓ ヘロドトスはその著書『歴史』中で、マッサゲタイ人は、麻の実を火中に投げ込む。実の焼けるにおいを嗅ぐとついには彼らは立ち上がって踊り狂うという」と記している。ここに書かれた状況は、まさに岩屋戸の神々そのものではないか。
ヘロドトス『歴史』松平千秋訳、172頁、岩波文庫2007。
- ✓ 麻についての参考論文:山本郁男、大麻文化科学考(その6)北陸大学紀要第19号(1995) pp, 1-11、山本郁夫「大麻文化科学考(その1)」『北陸大学紀要』第14号、1-15、(1990)、pp, 1-11、船山信次「アサと麻と大麻一薬用植物から危険ドラッグまで」『ファルマシア』、52, 827-831, 2016。(日本薬学会)。Wikipediaなど多数。



伊藤龍涯・筆 天岩戸開き 《天照大御神 記紀の伝える天岩屋戸神話》伊勢神宮蔵

■ 幻覚性植物は他にも

飛鳥の風土がもたらしたもの

—飛鳥と呪術と幻覚性植物—

内容

1. はじめに
2. 背景・動機・目的
3. 皇極・斉明天皇のマツリゴト(祭事、政事)に内包する道教と呪術性
4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為
5. 薬獵(くすりがり)と本草
6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」
7. 飛鳥という都市空間が持つ特別な意味
8. 飛鳥の風土がもたらしたもの

6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」

飛鳥(アスカ)という地名は湿地で神聖な土地

✓ 『日本書紀』崇峻紀には、「法興寺(飛鳥寺)一帯を「真神原」または「苦谷」とも名く」とあり、神のまします土地で、湿地状の地故に神聖を帯びていた¹⁾。

1. 千田稔他『飛鳥の覇者』文栄堂p.141(2011)(文栄堂)。

✓ 道教では水は神聖であり、神仙思想に通じる。そこに生える植物は神聖であると考えられた。

✓ (天地人(儒教) → 天地水(道教))。

✓ 鳥が栄光をもたらすと考えられていたことからシャーマンは鳥の姿を模倣した⁶⁾。(図-右)

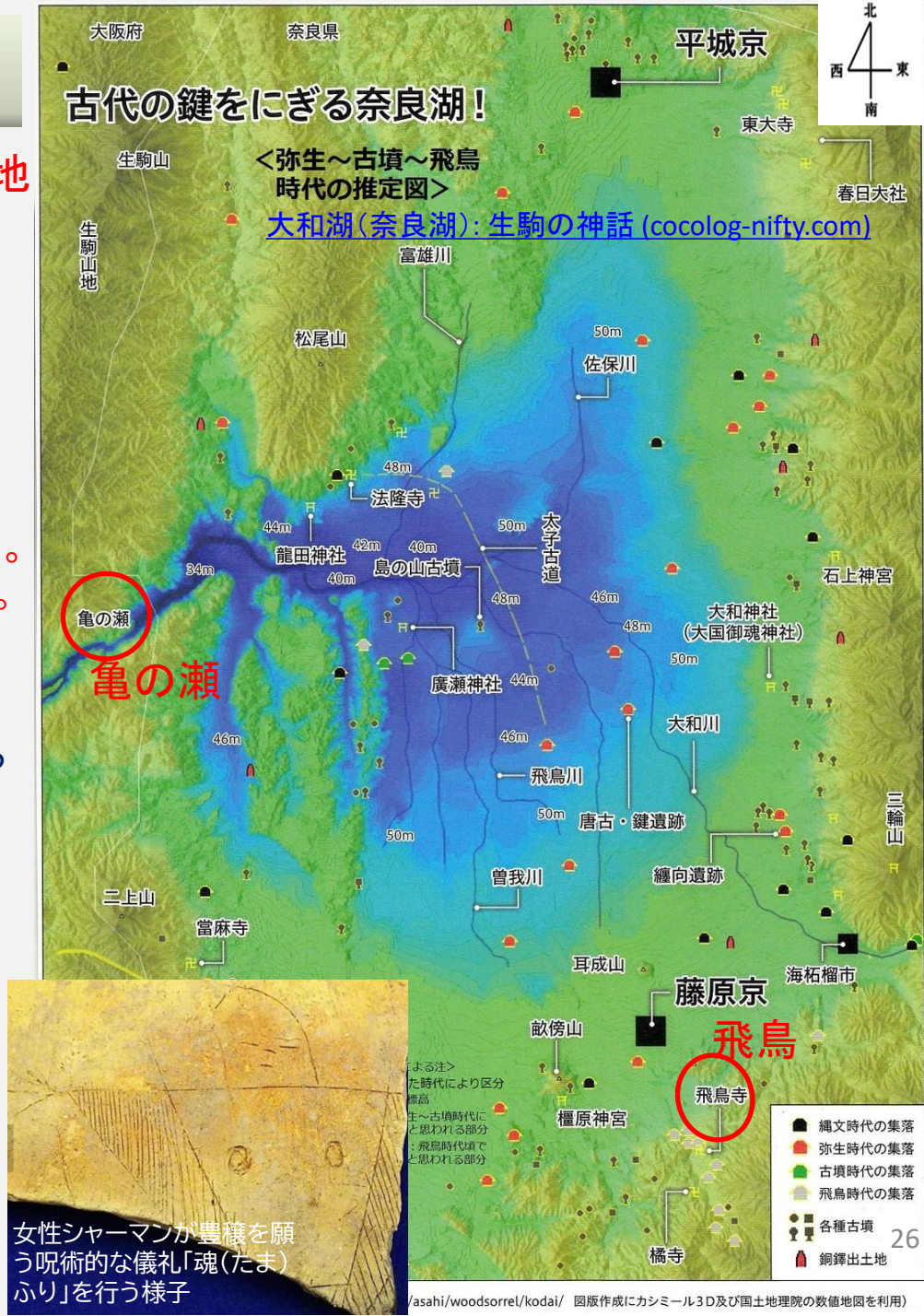
6) 山口博『大麻と古代日本の神々』, P.122, 宝島社新書。

✓ これらの意味を考えると、飛鳥という地は水の豊かな湿地で神のまします神聖なところ、千田稔氏は「飛鳥は水の王朝、あるいは一説に水の都」⁷⁾。と称されると述べている。また、その名のように鳥と関係している。

7) 千田稔『飛鳥の覇者』p.172-177(2011)(文栄堂)。

■ 飛鳥の湿地には種々の薬草が自生している。では、クサヨシとは何か？

鳥装の女性シャーマン 奈良県田原本町 清水風遺跡出土土器 www.sankei.com



6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」

飛鳥の湿地帯には幻覚性植物「クサヨシ」が自生する

- ✓ 『古事記』の語る「豊葦原水穂国」と『日本書紀』の記す「豊葦原瑞穂国」は日本国の美称。「水穂」と「瑞穂」はいずれも「イネの豊穰の意味。「豊葦原」はアシ野原が一面に広がっていた湿地のことで、元来は「アシ(葦)」(学名: *Phragmites australis*)と言っていたが、「アシ」は「悪し」に通ずるということで「ヨシ」と言い換えられるようになったという。クサヨシ(草葦)(イネ科クサヨシ属),英名: *Reed canarygrass*, 学名: *Phalaris arundinacea. L.*

- ✓ アシは神話時代からなじみの植物。『日本書紀』神代・上 一天地開闢と神々「天地之中生一物、状如葦牙。便化爲神、號國常立尊。」一葦の芽のような形のモノが神に化爲る(なる)。コレ国常立尊(くにのとこたちのみこと:最初の神)と申す。

- ✓ 全国各地の湿地、斑鳩竜田川下流部でもクサヨシ群落が確認されている事から、湿地が多かった飛鳥の時代においてもクサヨシは自生していた可能性が高い*。*大和川水系 河川整備計画 生駒斑鳩圏域平成14年2月 奈良県

- ✓ 現在も明日香村水田周辺、湿地帯、湖沼、牧草地や畑、川や湖の海岸などに自生・群生している 1)馬場多久男他『信州大学農学部 紀要』36、75-90(2000)、2)前伯ゆり『人間環境論集12』「明日香村稲淵における伝統的棚田畦畔植生の多様性」大阪産業大学111-130(平成24年)他



クサヨシ

6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」

クサヨシは幻覚性成分を持つ植物である。

- ✓ クサヨシ (*phalaris arundinacea. L.*)は茎と葉に以下の幻覚成分(DMT 化合物)を含んでいる。

幻覚剤としては十分な量を含むことが報告されている¹⁻⁴⁾。

DMTは強力な幻覚特性を有する化学物質。耐性や依存の兆候はほとんどない。

症状： 神経麻痺、痙攣、幻覚

成分¹⁻³⁾

- ・DMT (*N,N*-ジメチルトリプタミン: 幻覚剤、麻薬及び向精神薬取り取締法の麻薬)
- ・5-MeO-DMT (5-メトキシ-*N,N*-ジメチルトリプタミン: 幻覚剤)
- ・5-OH-DMT (5-ヒドロキシ-*N,N*-ジメチルトリプタミン (ブフォテニン): 幻覚剤)
- ・5-MeO-NMT (5-メトキシ-*N*-メチルトリプタミン: 幻覚剤様) 等々

1) S. Wilkinson, *J. Chem. Soc.*, 2079-2081 (1958).

2) Woods. D. L. *et.al.*, *Crop Science*. **19**, 853-857 (1979).

3) Terence A., *Phytochemistry*. **16**, 171-175 (1977).

4) J. K. Anderson Editor in chief, *Meyler's Side Effects of Drugs*.

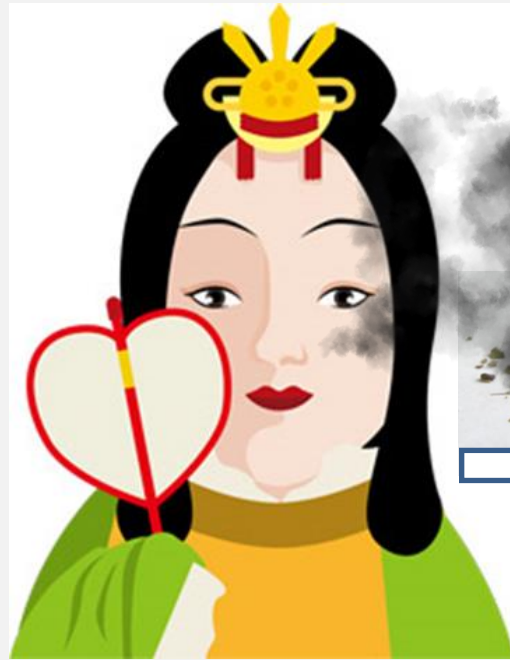
”The International Encyclopedia of Adverse Drug Reactions and Interactions. 16th. Edition “ (2016) Science Direct.

■ クサヨシの成分、DMTなどのトリプタミン類はいずれも幻覚作用がある。食べると人の酵素(MAO)で分解するが、吸煙では幻覚作用がある。しかし、女帝は本当にクサヨシを吸煙し祭祀を行っただろうか？

6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」

クサヨシ成分(DMT類)の幻覚作用

女帝は祭祀でクサヨシの乾燥粉末を加熱吸煙したら・・・



女帝

MAO



クサヨシを乾燥後
粉末にし、燻らせて
DMTを肺から吸煙



クサヨシ
(DMT:幻覚薬)



シャーマンに変身

(祭祀司式者)

6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」

クサヨシ成分(DMTなどのトリプタミン類)の幻覚作用

女帝は果たしてクサヨシを食して祭祀を行ったのであろうか？
—クサヨシを食してみたらシャーマンになれるか—

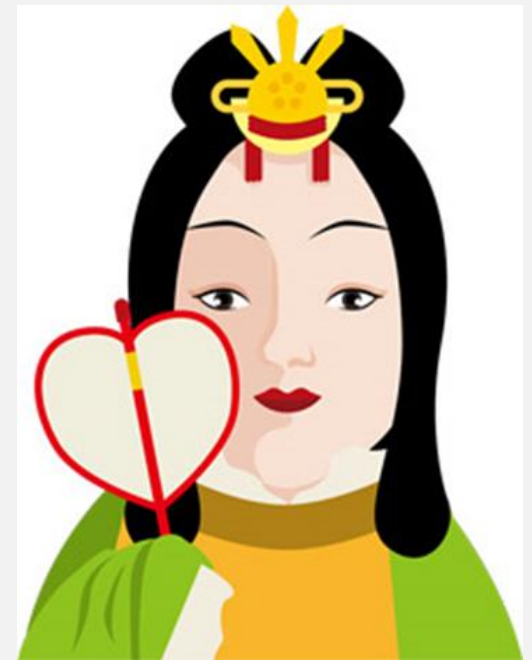


女帝



→
女帝の体内の酵素(MAO)が
DMTを分解

祭祀



女帝のまま

幻覚作用起きない

6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」

クサヨシ成分(DMT類)の幻覚作用

飛鳥には「蘇」(チーズのようなもの)があった。
「蘇」を食べてからクサヨシ酒を飲酒しても
シャーマンになれる？



チラミン: DMTと同じモノアミンという物質、酵素(MAO)により分解される。
(血圧上昇作用、高血圧症、頭痛、発熱、発汗、嘔吐等)

■ 「蘇」とは何か、「蘇」はなぜ必要であったのか？

6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」

「蘇」とは

- ✓ 「蘇」の研究は製法の復元も含め、多くの報告がなされているが「蘇」がどのようなものであるか明確な報告は見当たらない^{1, 2, 3)}。1) 東野治之他『奈良大学紀』1030-1038(1981)、2) 斎藤瑠美子他『日本家政学会誌』39、349-356(1988)、3) 有賀秀子他『日蓄会誌』59、253-260(1988)。
 - ✓ 日本人の牛乳飲用の最古の事例が史書に現れるのは孝徳天皇時代(645-654年)『新撰氏姓録』であるが、既に渡来人によって牛は飼育され搾乳されていた。乳製品がチーズ様または長期自然発酵したものが「蘇」と言われるものらしい。(チェダーチーズなどは長期間発酵(熟成)させることで短期発酵のものより各段に多量にチラミン⁴⁾が生成する⁵⁾。チラミンはチーズ中に含まれ、チーズを食べると腸管から吸収され肝臓で酵素(MAO)⁶⁾によりDMT⁷⁾と同様に分解される。4) チラミン: 食物中のタンパク質が微生物により分解を受けることにより生じる腐敗アミン、Wikipedia. 5) 原田大『ファルマシア』50、679-683(2014). 6) 酵素MAO(モノアミノオキシダーゼ)は食物から摂取されたモノアミンの分解に重要であるとともに、モノアミン神経伝達物質の不活性化にも寄与する。後者の機能のため、MAOは多数の精神疾患や神経疾患に関与している。Wikipedia. 7) DMT: トリプタミン類の原型となるアルカロイド物質で、自然界に発生する幻覚剤である。Wikipedia. DMT: S. Wilkinson, *J. Chem. Soc.*, 2079-2081(1958)。
 - ✓ 復元し作られた「蘇」、「酪」、「醍醐」(仏教において「醍醐」とは、乳を精製して作る乳製品のひとつ。乳の精製過程は五味(ごみ)と呼ばれる五段階に区分されていて、「乳(にゅう)・酪(らく)・生酥(しょうそ)・塾酥(じゅくそ)・醍醐(だいご)」の順で変化する。最終過程に相当する「醍醐」がもっとも高級品。「蘇」は「醍醐」の一手前の乳製品。) https://www.hotoke.click/daigo_so などと言われる乳製品関連物質のチラミンの量はかなり生成していると思われるがチラミンの定量報告は検索できなかった。しかし『延喜式』による製法⁸⁾や『政事要略』⁹⁾にある乳を煮詰めただけでは腐敗するので何らかの発酵処理をしたか、また自然に長期間発酵した蘇などの乳製品はチラミンが多量に含まれたと思われる。8) 斎藤瑠美子他『日本家政学会誌』40、201-206(1989). 9) 平安時代の政務運営に関する事例を掲げた書
- 酒に浸漬したクサヨシからDMTが溶出した酒を飲むとき、「蘇」は必要だったろうか？



「蘇」(復元品)

6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」

クサヨシ成分(DMT類)の幻覚作用

—祭祀では、「蘇」を食べてからクサヨシ酒を飲酒するとシャーマンになれる?—



「蘇」を食べてからクサヨシ酒を飲酒
「蘇」はなぜ必要であったのか?
「蘇」は酒の肴?

「DMTとチラミンは経口で同じ酵素(MAO)によって分解される。チラミンの多い「蘇」を先に食していれば、酵素(MAO)はチラミンで消費されているので、後からDMT(クサヨシ酒)を飲んでも幻覚作用を示す可能性がある。これは多量のDMTを摂取することと結果的に同じである(MAO-Aが働く)¹⁾」

1) Carbonaro, Theresa M.; Gatch, Michael B. (2016). "Neuropharmacology of N,N-dimethyltryptamine". *Brain Research Bulletin* 126 (Pt 1): 74–88.

- 女帝は松本清張氏の小説にある幻覚性神酒ハオマを使って祭祀を行ったのだろうか？むしろ、飛鳥の自然の中で自生しているクサヨシを祭祀に使ったかもしれない・・・？。

飛鳥の風土がもたらしたもの

—飛鳥と呪術と幻覚性植物—

内容

1. はじめに
2. 背景・動機・目的
3. 皇極・斉明天皇のマツリゴト(祭事、政事)に内包する道教と呪術性
4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為
5. 薬獵(くすりがり)と本草
6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」
7. 飛鳥という都市空間が持つ特別な意味
8. 飛鳥の風土がもたらしたもの

7. 飛鳥という都市空間が持つ特別な意味—1

◆ 通説¹⁻³⁾

飛鳥には、

- ✓ 中央構造線下の飛鳥周辺には水銀鉱山が多数あり**道教の神仙思想が発展**する条件があった。
- ✓ 神仙思想は仙人になるための思想であって、それに必要な**水銀や薬草**が飛鳥にあった。
- ✓ 道教的信仰を古代日本に伝えたのは、5世紀以降に渡来した倭漢氏と王仁の後裔氏族であった。檜前を拠点とした**倭漢氏は蘇我氏と密接な関係を持ち、政事・経済・軍事・土木・文化面など多方面に活躍し、それには大和川の存在は倭国の地政学や古代文化形成や飛鳥の成り立ちを支えた。**
- ✓ 飛鳥には神仙思想を背景にした天皇の薬狩り、祈雨、牛馬の供犠、四方拝、多武峰の道観、天宮、神仙境に見立てた吉野への行幸、水を崇めた苑池や須弥山に似せた噴水、亀形石、石山丘と狂心の渠、など**数えきれないほどの異教の宗教が見え隠れする。中でも祭祀においてはその道教思想が色濃く表れている。アニミズムが色濃く残る基層的信仰***は**呪術と宗教が一体化**している。
- ✓ 仏法で護られ、道教的な神仙の住みかに模されることで、聖性が強化された土地であり、宮を営むのにふさわしい¹⁾。
- ✓ 飛鳥は三方が山に囲まれた**軍事的要塞地**であり、防御には適した土地である。
- ✓ 蘇我氏は、稲目以来、**妹、娘らを大王(天皇)家に嫁がせ、天皇5代にわたって「蘇我系」とした。**(蘇我氏の氏神は「スサノヲ」で、氏神神社は素鷲(そが)神社及び須賀神社である。すなわち、「スサノヲ」は「すが」であり、「すが」は「そが」である。そして、「あすか」とは「あ・すが」であるという語源から、飛鳥の地こそは正に**蘇我氏の本貫地**である。そして、**飛鳥は歴代の都が最も多く存在した土地**である。……**など多数。**

*一般民衆の間で信じられている呪術宗教的な信仰

1) 阿部一氏の論文(前出)他、千田稔、金子裕之『飛鳥・藤原京の謎を掘る』p.212, 2000. 文英堂。

2) 和田萃『日本古代の道教的信仰—『日本古代の儀礼と祭祀・信仰 中』、p.5-29, 1995. 塙書房

3) 戸矢学『天皇家を襲った最強の怨霊—蘇我入鹿—、「呪術と怨霊の天皇史」、山折哲雄他『歴史読本』p.172-187, 2012, 新人物往来社

■ **これらは飛鳥が地政学的に都に適している場所であることを示している。**

7. 飛鳥という都市空間が持つ特別な意味—2

飛鳥寺

「狂心の渠」

大和川を經由し大和水銀鉱山などへ続く

✓ 産業の発展を担うため水銀を使った工房(飛鳥池)を造る必要があった。

✓ 「狂心の渠」は、大和川を利用し、比重の大きな水銀(辰砂)を天理砂岩とともに、飛鳥池工房(遺跡)へ運搬するための運河でもあった。

✓ 大和水銀鉱山など近畿圏にある水銀鉱山からの水銀を運ぶのに有利であった。

■ 律令の制定に向けた改革や鍍金技術や大仏造頭技術開発など経済発展を目指した。運輸にも大和川が利用できる飛鳥はここでも地政学的に有利であった。

■ また、都市空間が持つ特別な意味として水銀の枯渇と共に仙薬を本草に求めた。飛鳥周辺には薬用や祭祀に使われる植物が豊富にあった。

飛鳥池工房遺跡 (奈良県立万葉文化館)

◆ 私見¹⁾(なぜ飛鳥か)

7世紀、緊迫する東アジア情勢の下、倭国は律令国家体制の推進と中央集権国家構築へ道を急ぐ必要があった。技術、工業、公共事業を礎とした経済発展を目指す齊明天皇の政策のひとつが、「狂心の渠」の工事(日本書紀656年 齊明天皇2年)である。

1)「水銀の道、飛鳥池工房遺跡の出土品」
2021、10月当会発表



亀形石像物
平成12年(2000年)発見

齊明天皇の
道教思想を意識した
祭祀の施設



酒船石遺跡



飛鳥の風土がもたらしたもの

—飛鳥と呪術と幻覚性植物—

内容

1. はじめに
2. 背景・動機・目的
3. 皇極・斉明天皇のマツリゴト(祭事、政事)に内包する道教と呪術性
4. シャーマニズムの秘儀と神秘的行為
5. 薬獵(くすりがり)と本草
6. 飛鳥と幻覚性植物「クサヨシ」
7. 飛鳥という都市空間が持つ特別な意味
8. 飛鳥の風土がもたらしたもの

8. 飛鳥の風土がもたらしたもの —飛鳥と呪術と幻覚性植物—

まとめ

飛鳥の風土とは

- (地勢) 飛鳥は神仙境を望み、不老長生を願う仙薬など神仙思想を実現できる地勢的条件が満たされた理想の地である。
- (自然・気候) 飛鳥という地は、水の豊かな湿地で、そこには仙薬としての本草や幻覚性植物クサヨシが自生していた。
- (祭事・政事・宗教・文化・精神的環境) 飛鳥は、湿地で神のまします神聖なところであり、呪術と宗教が複合体として存在した空間であり、神仙思想の理想境を望む呪術的要素を持つマツリゴト(祭事・政事)を享受できる都市であった。「狂心の渠」を利用した水銀は産業、文化の発展をもたらした^{1、2)}。

1) 拙稿「薬草と古代の色と匂い」『歴研よこはま』79, 53-56、横浜歴史研究会(令和元年11月)。

2) 「水銀の道、飛鳥池工房遺跡の出土品」 2021、10月当会発表

マツリゴトに内包する神仙思想を通して、その背景にある呪術と仙薬(幻覚性植物)が、飛鳥という風土の一部を構成したことが、飛鳥に都が置かれた理由のひとつであると考える。

飛鳥に都を置くことの絶対的な条件は道教の存在であった。道教の仙薬である水銀の存在や豊かに自生する本草(薬草)、飛鳥から望む吉野境を神仙思想の理想郷とした神聖な地勢的な条件と風土、これらが備わった地こそ飛鳥であった。

■ この風土なくして飛鳥京はなかった

8. 飛鳥の風土がもたらしたもの —飛鳥と呪術と幻覚性植物—

さいごに
内容のキーワード

大和川・渡来人・道教・神仙思想・仙薬・水銀

- 5世紀以降渡来した氏族集団は蘇我氏と緊密な関係を結び、政事・経済・軍事・土木・文化面で活躍するとともに日本に道教的信仰を伝え、飛鳥の成り立ちをはじめ日本の地政学や古代文化形成に大きく寄与した。不老長生を願う仙人になるためには仙薬が必要。仙薬とは水銀である。

薬草畜の詔勅・薬猟・本草(薬草)

- 推古天皇より「薬草は民を養う要物なり。厚くこれを蓄ふべし」との詔勅があり、これ以後、薬猟り、すなわち薬草狩りが行われるようになった。水銀の毒性も明らかになり水銀の枯渇も進んだ。

聖性・湿地・幻覚性植物・雑蜜

- やがて仙薬は水銀から薬用のもとになる植物・本草に移行した。既に仙人が空を飛び、変身し、不死、呪術などに幻覚性植物が使われていたが、体系化される以前の初期密教教義である呪術が雑蜜や修験道にも使われるようになった。

- それは道教や雑蜜に内在する呪術や宗教的心性と共鳴するもので、**幻覚性植物(クサヨシ)の存在がシャーマンの呪術と祭祀と共に飛鳥という都市にあった。**

クサヨシ・呪術・シャーマン・祭祀

この風土こそ
飛鳥である

飛鳥の時間軸

飛鳥は水の豊かな神聖な場所。吉野は仙人の住む神仙境に擬せられた地¹⁾。その吉野を望む飛鳥は地政学的にも都に最も適していた。

1) 千田稔他、飛鳥の覇者、p.160. 文英堂(2011).

飛鳥やその周辺の地は薬草に恵まれた地であった。

湿地と幻覚性植物。
超自然的な能力と呪術の獲得。

- 都市として求められるすべてのもの(政治・経済・文化)の中心であって、宗教と呪術が複合体として存在する精神的環境こそ飛鳥であり、その地勢や自然のすべてをも包括的に備えた風土こそ、飛鳥という空間(都市空間)であった。飛鳥は都市国家としてすべての条件を兼ね備えた日本という国家の礎となった地である。

ありがとうございました。

齊明天皇は、本当にクサヨシを使って祭祀を行ったのか、
? のままです。